

私のために死んでくださった方のために生きよう。

大阪インターナショナルチャーチ、アメリカはマサチューセッツ州ボストンから、おはようございます。

新年を迎えてから、もう3週間が経ちました。それは、睡眠を必要としない人々に起こるように、テレビで垣間見ることができ、地球上のいたるところで祝われている、と言えるでしょう。元旦はまた、多くの人々が新年の抱負を立てます。歴史家によると、この伝統は約4000年前にバビロニア人が始めたと言われていています。その成功率は様々であるが、16%程度が1年を通して決意したことをやり遂げたと報告されています。統計によると、3週間経った現在、11%の人が新年のわくわくするような生活改善計画をあきらめているそうです。しかし、ほとんどの人は、新年の抱負を陽気な気分で書いているのであって、陰気な気分で書いているわけではありません。

Googleで検索してみると、日本では新年の抱負を「新年の抱負」と呼ぶそうです。そして、その決意表明をすることを「書き初め」と呼ぶそうです。それを美しい書道で仲間に宣言する。そんな技術があればいいのですが...これは私のかきぞめになります。そう、黄色い付箋紙がゴキブリのように私の書斎に侵入してきたのです。決意表明のためでなく、私にとって大切なことを思い出させてくれるのです。妻のドロシーが、このビデオに、**私の人生の大計画...**たくさんの付箋を、この日本のスクリーンの後ろに隠しておくように仕向けてくれたのです。

さて、このメッセージで紹介する聖句を読みましょう。

Googleで検索すると、世界各国の決意のトップ3は、**食事、運動、減量**と続きます。これは、特にCOVID19ペスト以降、時に健康に執着する現代社会では当然のことです。誰もが人生を最大限に楽しむために健康でありたいと願う。しかし、私たちクリスチャンは、活動から得られる豊かな命と、命の創造主である主との密接な交わりによって生み出される豊かさを混同しがちです。世界中の社会が健康であろうとするのは、きっと死の恐怖が大きく関係しているのでしょう。

ですから、決意は多くの人にとって深刻なものであり、失敗すれば、危険と死に満ちた世界における自分の死期を思い知らされて、落ち込む人もいるかもしれません。私は、クリスチャンが新年の抱負を立ててはいけないと宣言しているわけではありません。私たちの多くは、1年間で聖書全体を読み通すために、新年の決意という形で自分の意志を試されることになったのです。そのような新年の決意の有無にかかわらず、すべてのクリスチャンに少なくとも一度は行うことをお勧めします。要は、新年の抱負は、**“私”**という大きな言葉にとらわれているのです。私はこの解決された規律によって、私の人生を改善します。スペイン人の隣人が言うように、**私、私、ah 私...**とやる気満々になるのです。私たちクリスチャンは、“自分”との付き合い方に本当に苦勞しています。“自己”はいつ“利己的”になるのか？

キリスト教はグノーシス派の宗教ではありません。グノーシス主義の異端は、使徒ヨハネの手紙に見られるように、紀元90年ごろから教会に現れ始めました。ヨハネによる手紙(1ヨハネ1:1)には、「私たちが見、私たちの手が触れたのは、いのちのことばに関するものであった。イエスのメッセージは、イエスという人物を切り離すことはできない。私たちクリスチャンは、神の御心を達成するために肉体を犠牲にしなければなりません、私たちの肉体と魂がイエスにとってどれほど尊い存在であるかを決して忘れてはなりません。グノーシス派は、物質的な肉体は悪であると信じています。

イエスが語られた律法の中の最大の戒め。心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛せよ。(マタイ22:38)... 次もそれと同じです。隣人を自分のように愛せよ(:39) すべての律法と預言者は、この二つの戒めに依存している(マタイ22:40)。そして、夫の妻への愛について、聖霊は使徒パウロを動かして(エペソ5:28-30)に書かせました。このように、夫は妻を自分の体のように愛するべきです。妻を愛する人は、自分自身を愛しているのです。自分の体を憎む人はいません。キリストが教会にしてくださるよう、私達もキリストのからだの一部なので、誰もが自分のからだを養い、やさしく扱います。

聖書的な自己愛と「心の中で自分を王位につける」ことの間この緊張は、私達が本当に理解できないほど私達を愛してくださっていることを信じることによって、いつも答えられると結論づけることができるかもしれません。

神様は、私達が単に何かをすることよりも、なぜ(WHY)それをするのかにいつも関心を持たれます。WHYが正しければ、その活動は神の御子イエスとの関係を強めるものであり、例えば、イエスを喜ばせる方法で妻を愛することです。このように、それは**私のために死んでくださった方、イエスのために動機づけられているもの**なのです。

第二コリント5章では、私たちの主イエスのようになるために生きることが、どのように主イエスのために生きるという強力な動機を見いだすことができるかを見ていきます。ここで使徒パウロは、この世で提案されている自己中心的な成功とは、はるかに異なる人生へのアプローチを提示しています。これこそ、豊かで永遠な人生のための真の毎日を送る決意なのです。私は、**私のために死んでくださった方のために**生きよう。

聖霊は、パウロのコリント人への第二の手紙の中で、クリスチャンがこの地球での数年間をイエスに従って生きるために、どのように生き、何を重視すべきかを知るために、これらの聖句を吹き込んでくださいました。

もし私達が住んでいる地上の天幕が取り壊されても、人間の手で作られたものでなく、永遠に続く神からの天幕を手に入れることができると知っているのです。(2 Corinthians 5:1 AAT) パウロはクリスチャンに、イエスの約束を本当に信じ、それを日々の生活態度に適用するように言っているのです。イエスはラザロを墓からよみがえらせる直前、マルタにこう言われた：わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。そう、生きていて私を信じる者は、決して死ぬことはない。(ヨハネ11:25-26)。そして、イエス様がマルタに言われたことは、私達クリスチャンと呼ばれる人たちにも言われることで

す…。あなたはそれを信じますか？(26) イエスは、死を克服するご自分の力に対する不信仰を、羊の一匹として甘やかすことはなさいません！ マルタの答え、イエスがメシアであるという彼女の信仰は、イギリスではリンゼーウルジーと呼ばれるようなもので、**本当の信念を持たない弱いものでした。**しかし、これはイエスが十字架につけられ、イースターの朝、墓の中から復活する前のことです。彼女はペテロと同じように、イエスのメシア性を告白したのです。しかし、紀元 2023 年の私たちクリスチャンは、聖書の中でイエスの十字架と復活、昇天を目撃し、父の約束である聖霊を受けたので、心からの主よ、**私は信じます！** 以外に答えようがないはずですよ！。

健康な体を維持することに執着し、新しいモデルが用意されていることを信じない世の中の多くの人たちとは違う。…パウロは、今の体や天幕を維持することに不満があることを表明しています。私たちがまだこの天幕の中にいる間は、この体を脱ぎ捨てないで、他の体を着ることを望み、命が私たちの死を飲み込むことを望んでいるので、苦しみを感ぜながらため息をついているのです。(2 コリント 5: 4) しかし、パウロは、神のみことばを信じる信仰によって、キリストの再臨の前に自分の古い体が死んで、種のように土に植えられ、そのとき初めて新しい体が使えるようになることを理解したのです。

さて、私のような信仰の薄い者が、どうしてパウロのような信仰を持つことができるのだろうか、**私が自問しているように、皆さんもお尋ねになること**でしょう。ここで、新年やその他の肉の腕に依存する決意の主な問題点に行き着きます。**自分の努力でより大きな信仰を獲得することは不可能です...**ですから、神様が約束通りにそれをされたら、栄光を受けるのです。これは**神がなさる仕事**です。神はクリスチャンの心の中に忍耐強く働きかけ、魂を回復させるだけでなく、成熟した信仰を創りだされるのです。

私たちの信仰は、私たちの信仰にではなく、イエスになければなりません。5 節ではっきりと神様がご自分の上に置かれるように。神はそのために私たちが準備し、保証として御霊を与えてくださったのです。三位一体の第三の位格は、私たちの信仰の単なる粉飾ではなく、イエスのために生きる私たちの姿勢と力の核心となる影響力なのです。

では、もしあなたがクリスチャンでないか、あるいは聖書がここで教えていることに対してまだ信仰が成熟していないなら、この次の文章を矛盾した、ばかげたものだと言うかもしれません。なぜなら、パウロが新しい天国の体を受け入れるために死を受け入れたことは、すなわち、**私たちはいつも自信を持っているのです。**(2 コリント 5・6a)につながるからです。

なぞなぞ？と思うかもしれませんが、でも、もし私たちがイエスという一人の人間のために、そして私たちの魂の恋人であるイエスというただ一つの存在のために生きているなら、死は小さな川を渡ることであり、反対側でイエスが両手を広げてあなたを待っていることを知っていることなのです。私は、クリスチャンとして初めて歌を歌った時のことを覚えています。**あなたの慈しみは命にまさる、**(詩編 63: 3) より。

私は、この詩篇の作者にどれだけ強く同意しているのか、自分の心を十分に理解していなかったのです。神様は、私たちの心の願いを、神様の御言葉から形成されたものとして、**私たちに与えてくださいます。**

私の旅の中に、イエス様の誠実さを見ることができるよう祈っています。私の旅は、多くの場合、*信仰心の薄い歩み*のように思えることが多々ありました。信者になって約 10 年、神様に祈る私の歌を紹介します。私は輝かしい霊的賜物を受け、異文化間交流の修士号を取得し、美しいクリスチャンの妻と二人の美しいクリスチャンの娘を持っています。しかし、パウロが 6 節 a で述べているように、私は必ずしもいつでも自信があることは無いことに気づきました。この自信のなさは、自分の理解では意味がなかったのです…ということで、神様にかけました！私はこの小さな曲を書き、神様に祈るように歌いました。

イエスによって自信を持たせ、主によって自信を持つ。

イエスによって自信を持たせ、主の聖なる御言葉によって信頼する。

イエスによって自信を持たせ、その言葉を読み、信じなさい…。

主よ、あなたが私に知ってほしいことを知ることができます。

常に準備万端、主よ

イエスによって自信を持たせてください

主によって自信を持たせてください。ブルース・アレン師 1982 年頃

今、自分の自信を判断するのはためらわれますが、もし、あの小さな歌を作らず、よく歌わなかったら、私はここで、イエス様の伝道師として、大切な羊である皆さんに食事を与える勇気はなかったと思います。祈りとして歌を歌うことは、神様の御手を動かすと私は強く信じています。正直言って、この歌を歌った直後、私はこう言いました… *神様が現れ始めたのです！*

1982 年、もし私が新年の抱負として、来年はもっと自信を持つことにしていたら、神が木に小さな青リンゴを実らせたように、今の私は皆さんの牧師の候補にはなっていなかったでしょう！

私たちは、この肉体の中で生きている限り、主から離れて生きていることを知っているのです。(2 コリント 5.6b AAT)。地上でイエスに近づくことは、私たちが天国で神の臨在の中で経験することに比べれば、淡いものです。神の素晴らしいプレゼンスでさえ、ここでは短時間しか続きません。ある立派な聖書伝道師が、私たちの肉体は神の強い個人的な啓示に長くは耐えられないと言っていたのを思い出します。そのような個人的な体験をイエスの霊と一緒に覚えておくことは、私たちの自信のために不可欠です。イエス様は、私たちが必要とする感覚的な体験と信仰との間のバランスも知っておられます。次の聖句は、この点をよく表しています：私たちは、見ることによってではなく、信仰によって人生を歩んでいるのです。(2 コリント 5:7)。パウロの生涯には、1) エマオへの道で復活し栄光を与えられたイエスを見たこと、2) 奇跡的に目が癒され、聖霊に満たされたこと、3) ユダヤ人に石打された後も超然として生きていたこと、などが含まれます。4) 神の天使の訪問… などなど。パウロは、復活したキリストに会うなど、多くの視覚的な霊的体験をし、信仰を作り上げた。その後、神からの啓示がその信仰を後押しした。しかし、彼はまた、神がすでに

与えてくださった信仰によって歩むべきであり、それ以上の視覚的な経験を求めてはならないことも知っていたのです。

私は、このことに関する簡潔な態度の要約が好きです。 **御言葉と御精霊**。

ですから、私たちは、「覚えておきなさい」と励まそうではありませんか。

御言葉 - **神様の貴重な約束の聖書箇所**。

御精霊 - **神が現れたと感じた時**。…大阪の繁華街の駐車場の祈りにも答えてくれた。神様が私たちの人生になさることはすべて重要です。

御言葉と御聖霊は、神があなたと共にいて、あなたの救いを実現させてくださることを覚えるために不可欠なものです。

アンプリファイド・バイブル訳では、次のように表現しています (2 コリント 5:8 -10)。

[はい]私たちは、自信と希望に満ちた勇気を持ち、むしろ体を離れて家を離れ、主とともに家にいることを喜んでいます。

ですから、私たちは、家にいるとき (主から離れた地上にいるとき) でも、家から離れているとき (主とともにいるとき) でも、常に希望を持ち、主に喜ばれるように真剣に努力します。私たちはみな、キリストの裁きの座の前に姿を現して、善であれ悪であれ、肉体の中で行ったことに応じて報酬を受けることができるようにしなければならぬからです。 [a]彼の目的と動機は何であったか、そして [b]彼が達成したこと、没頭したこと、成就するために、自分自身とその注意を注いだことは何か]。

アンプリファイド・バイブルは、この聖句の意味を非常に明確に解き明かしています。「キリストの裁きの座」は、クリスチャンだけのものです。私たちが地上で捧げたものは、肉体を離れた後、主イエスによって裁かれるのです。この訳は、**私たちが何をしたかという動機が、成果の量よりも重要であることを強調しています**。私たちの動機は善なのか悪なのか？クリスチャンはどのようにして悪と判断されるのでしょうか。私たちは、クリスチャンが悪魔的な宗教を密かに実践している姿を想像して、その人を悪と判断してしまいがちです。イエスの弟でエルサレム教会の牧師であったヤコブは、クリスチャンが自分のしていることに気づかず、悪の動機によってイエスのためのミニストリーを汚してしまうことがあると説明しています。

(ヤコブ 3: 13-18) は言う。

あなた方の中で、賢く聡明な人は誰ですか？優しい知恵の精神で、自分のできることを立派な生き方で示しなさい。しかし、もし、あなたがたの心の中に、苦しい嫉妬と利己的な野心があるならば、真理に逆らって自慢したり、嘘をついたりしてはならないのです。そのような知恵は、上から来るのではなく、地から、現世から、悪魔から来るのです。そのような嫉妬と利己主義のあるところには、混乱とあらゆる種類の悪があります。上から来る知恵は、まず純粹であり、次に平和であり、穏やかであり、喜んで従い、あわれみと良い行いに満ち、

公平であり、偽善のないものです。そして、義の実を平和のうちに蒔くのは、平和を作る者です。

スタンレー・M・ホートン博士は、「究極の勝利」という本を書きました。即ち、黙示録の解説という本を書きました。イエスの「報いを伴う来臨」（黙示録 22: 12-13）についての考察で、彼はこう言った。

”その裁きは、行いの量ではなく、その人が行いをするときに示した精神、動機、愛に基づいて行われる”。これは、アンプリファイド・バイブルの「2 コリント 5: 8-10」にあるキリストの裁きの席に関する強力な支持となる教えである。

(2 コリント 5: 11-12 AMP) で。

私たちは主を敬うことの意味を知っており、すべての人が主のもとに立ち返ることを勧めています。私たちがどのような人間であるかは、神ご自身がご存じであり、皆さんもご存じだと思います。私たちは、もう一回自分たちを自慢しようとは思っていません。しかし、誠実でなく、他人の評価を自慢するような人たちと一緒にいるとき、私たちが誇りに思ってしまうのです。

(第二コリント 5:11) のある訳では、*respect* (尊敬) という言葉を恐怖と訳しています。または恐怖として - 主の恐怖を知る (KJV, AAT)、主の恐怖 (NIV) …人々の説得に努めます。これでは、この節を、失われた人々がイエスを拒絶した場合に恐怖を持つという意味に解釈してしまいがちです。しかし、パウロがここでコリントの人々に語っている動機は、その前の 10 節の文脈から明らかです。この節は、罪人の最後の審判ではなく、キリストの審判の座におけるクリスチャンの報いについて述べています。

アンプリファイド訳では、「恐れや恐怖ではなく、尊敬」という表現がぴったりです。クリスチャンが裁かれるのは、非難ではなく、イエスへの奉仕に対する報いだけです。

同様に、The Expositor's Bible Commentary on (2 Corinthians 5:11) はこう言っています。

「ここでいう主への畏れは、個人的な敬虔さでもなく、全能の主が人々の心に呼び起こす恐怖でもなく、パウロが自分の神の評価者、将来の審判者としてキリストに抱いた敬虔な畏敬の念である。パウロは自分の責任を自覚し、他の人々に福音の真理を説得しようと努めた……」。

神は、自分のために死んでくださった方、すなわちイエス様のために、畏敬の念をもって生きることを子らに願っておられます。そのように生きることは、揺るぎない信仰を生み、神が私たちの歩みのために用意してくださった良い行いを見いだすという良い結果をもたらします。(エペソ 2.10) 今、主のために生きることは、私たちの心がイエスの再臨の時に、そしてもちろん、私たちが地上で息を引き取った後に、イエスを見ることができるようになることなのです。使徒ヨハネは、(1 John 2: 28 AMP) でビリーバーたちを激励しています。:

そこで、子たちよ(信者または愛する者)、キリストのうちにとどまっていなさい [揺るがない信仰を持って]。それは、彼が現れる時[[再臨の時に]に、[完全な]確信を持ち、その来臨に際して、みまえに恥じることがないためである。

さて、パウロはコリントの教会が彼に与えた不満や疑問のいくつかを明らかにしています。彼は自分の宣教の正当性を神に宣言し、“私たちはどんな人たちなのか”と語っています。コリントの人々の、創始者であり父であるパウロへの忠誠をめぐって、他の説教者たちがパウロと競争しようとしていたことは明らかです。... 誠実でなく、他人がどう思うかを自慢する人たちです。(2 コリント 5:12 AMP)。

彼はこの手紙の後半で、コリント教会の創設者としての特権を主張する偽りの使徒たちを特に取り上げるようになります。(2 コリント 11:20)

パウロはその心境を (2 コリント 5:13 AMP) で説明している。

もし私たちが正気でないなら (一部の評論家が言うように単なる不安定な狂信者)、それは神のためであり、もし私たちが正気であるなら、それはあなたの利益のためなのです。どうやらパウロの超自然的な油注ぎは、コリントの不平分子の一部、おそらく偽使徒たちによって疑問視されていたようです。しかし、ここでパウロは本題の肯定的な問題に取り掛かります。:

なぜなら、キリストの愛がわたしたちに強く迫っているからである。わたしたちはこう考えている。ひとりの人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのである。そして、彼がすべての人のために死んだのは、生きている者がもはや自分のためにではなく、**自分のために死んでよみがえったかたのために、生きるため**である。(2 コリント 5: 14-15) イエスが全人類のために死なれたことを知っているパウロには、キリストの愛が強いる、そのような拘束力があるのです。キリストの死によって、全人類は霊的に死んだのです。つまり、すべての人が罪のために受けるべき死を受けたのです。神の救いの申し出は誰も除外しないので、贖いの範囲は普遍的ですが、この普遍的に提供された救いの恩恵をすべての人が受けるわけではないので、贖いの適用範囲は限定されます。

聖書の (1 Peter 3:18 AMP) にあるように :

本当にキリストはすべての罪のために一度死なれ、正しい者が不正な者のために死んだ[罪人には無実を]のです。それは、肉において死なせられたが、御霊において生かされた私たちを、神のもとに連れて行くためである :ラザロの墓の前でイエスが愛するマルタと向き合ったように、イエスは今日ここにいる皆に問いかけているのです-あなたは信じるか? 死者をよみがえらせる力だけでなく、私たちと神との関係のために、あなたの罪のために十字架上で犠牲になってくださったことを。

この良い知らせを信じることで、私たちのために普遍的に提供されたこの救いを得ることができるのです!

キリストが私たちのために死んでくださったのですから、私たちは常に信仰を分かち合い、信仰のために苦しみ、信仰のために死ぬことさえも覚悟していなければなりません。

私は私のために死んでくださった方のために生きよう。これはクリスチャンにとって大きなモチベーションとなります。イエスが十字架にかかることによって私たちに示した愛は、生きるための説得力のある理由となります。この聖句は、イエス様が私たちのために**死からよみがえられた**ことも教えています。

パウロは、コリントの人たちが肉体の復活と死後の世界を確信できることを強調しました。ですから、私たちも、私たちのために用意された天国の体を確信することができます。この確信は、この地上での生活のあらゆる面に影響します。私たちクリスチャンは、罪人に救い主の必要性を警告するために神が送られた災い、COVID19の真っ只中にまだいることを認識すべきです。それは世界の隅々まで、そして私たちの生活の多くの側面に影響を及ぼしています。私たちの天の体への信頼が、この恐怖と死の暗い世界で私たちを際立たせているのです。

親愛なるキリストの兄弟姉妹たちへ -

私たちのために死んでくださった方のために生きましょう。私たちが信仰を忘れるように誘惑する世の中で、聖霊の力を求めて神に立ち向かいましょう。そして、主が約束し、その犠牲によって私たちのために買ってくださった豊かな人生を手に入れましょう。イエス様への確信と、イエス様が用意してくださった新しい天国の体に確信が持てるように、神様にお願ひし続けましょう。

祈りましょう。